

みんなの地域だより



◆問い合わせ
文化生涯学習課
公民館・スポーツ係
(☎ 44-5110)

第35回 鬼火タコあげ大会

猪位金校区活性化協議会

1月7日、下位登運動公園で、猪位金校区活性化協議会（阿部十九男会長）の公民館部会が主催する「鬼火タコあげ大会」が行われました。正月飾りを焼いて一年の無病息災を祈る「鬼火」。最初は火がなかなかつかず苦戦しましたが、竹で組んだやぐらに火がつくと、バチバチと大きく燃え上がり、竹のはじける音が公園中に響き渡りました。

同日には、子ども部と大人の部に分かれて「タコあげ大会」が行われ、参加者は寒さを忘れてたこ揚げに夢中になりました。子ども部では、子どもたちが思い思いに作った95のたこが空を舞い、元気に公園内を走る子どもたちの姿が見られました。大人の部では、大会の名物である「大だこ」が登場。各地区が趣向を凝らして作った9つの大だこが舞いあがると、会場から大きな拍手が送られました。今大会で一番きれいに高く飛んだ大だこは清美区の作品で、大空賞を受賞しました。



▲新春の風を受けてふわりと浮き上がる大だこ

凧あげ大会

中央校区活性化協議会

1月14日、市総合グラウンドで、中央校区活性化協議会（広滋勝己会長）の青少年育成部会が主催する「凧あげ大会」が行われ、親子連れなど約200人が参加しました。

この大会は、校区住民が新春に理想を掲げ、希望を求めて空高めたこを揚げることを目的に毎年開催されており、今回で30回目の開催。子どもたちは、田川小学校での「たこ作り教室」や地区公民館でそれぞれ手作りした個性が光るたこを持ち寄り、新春の空を見上げてグラウンドを駆けました。また、たこ揚げの後にはおでんが振る舞われ、参加者の冷えた身体を温めました。

この大会で会長賞を受賞した中央中学校2年の川田翔平さんは「風がなかったので、たこを揚げるのが難しかった。一生懸命走って高く揚げるのができたのでうれしかった」と話しました。



▲「もっと高く揚げたい」と縦横無尽に走る子どもたち

ふれあい餅つき大会

田川校区活性化協議会

1月14日、田川校区活性化協議会（栗本康雄会長）の公民館部会による「ふれあい餅つき大会」が大多数小学校で行われ、子どもから大人まで約90人の校区住民が参加しました。子どもたちは、ずっしりと重みのある杵に苦戦しながらも、熟練の人たちからのアドバイスで次第にコツをつかみ、元気いっぱい餅をつきながら伝統行事を肌で感じました。

この日つきあげたもち米の量は約60kg。参加者は笑顔で会話を楽しみながら、全員で交代して餅をついたり、餅をちぎって丸めたりして交流しました。つきたての真っ白な餅は、参加者の手で次々ときなこ餅などおいしいそうなお餅料理に変身。「やわらかくておいしい」「自分たちでついた餅の味は格別」などと感想を話しながら新春を祝いました。



▲餅をつくたびに、白から温かい湯気が立ち上がりました